

Domaine Ponkotsu

新着ワイン情報



N・G ノンガス 2019 (ロゼ)

巨峰主体の発泡、のはずが瓶詰したら発酵が止まってしまった。2019VはN・Gとタイトルを変更。塩山高校前のヴィニフェラが入っている。昨年までのメルロー、カベルネソーヴィニオンは入っていない。

今回は、メインとなる巨峰系のブドウをプレスし発酵させたところに、シュナンブラン、ソーヴィニオンブラン、プティマンサン、カベルネフランをプレスし合併。残糖が適切な値となるまで発酵させ、一度澱引きをして瓶詰め。が、現状止まった状態。ほのかな甘みを感じ、多めの濁りからの旨味を感じる優しい味わいに仕上がっている。

※2/10 時点、瓶内発酵無し

※残糖 3~4g/L (仮に再発酵した場合 2~3 気圧の軽いペティアン程度のがス圧になります。安全のため要冷蔵扱いをお願いします)

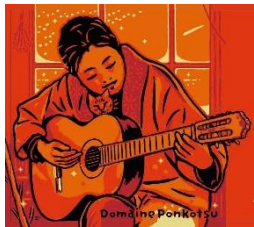
上岩崎 (かみいわさき) : 甲州市勝沼町上岩崎。棚仕立て。品種は巨峰。

小佐手 (おさで) : 甲州市勝沼町小佐手。棚仕立て。品種は巨峰、ピオーネ、甲斐路、デラウェア、甲州。

塩山高校前 (えんざんこうこうまへ) : 甲州市塩山。垣根仕立て品種はシュナンブラン、

ソーヴィニオンブラン、プティマンサン。

水口 (みずぐち) : 山梨市水口。棚仕立て。品種はデラウェア、一文字でシュナンブラン、ソーヴィニオンブラン。



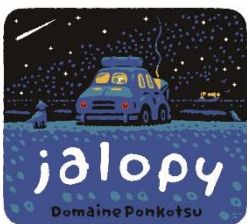
まどぎわ 2019 (醸し)

今年は甲州とデラウェアのみで仕込んでいる。甲州は昨年よりも中身は濃く、酸も残っている。発酵中の甲州とデラウェアに、あとから収穫した甲州を房ごと浮かべ、ほのかな醸しのニュアンスを付与し、香り高く仕上げている。

小佐手 (おさで) : 甲州市勝沼町小佐手。棚仕立て。品種は巨峰、ピオーネ、甲斐路、デラウェア、甲州。

大泉 (おおいずみ) : 勝沼町下岩崎大泉 棚仕立て。品種は甲州、デラウェア。

山田 (やまだ) : 甲州市上岩崎山田。棚仕立て。品種はデラウェア。平地。



ジャロピー 2019 (醸し)

今年はデラウェアのみで仕込んでいる。収穫は8月下旬に1回。2週間後9月に入ってから2回目。完熟から過熟の間を狙った。1回目は7日、2回目は5日の醸し。

モノセパージュの影響もあり、シンプルな構成だが、ふくよかさのある味わい。ヴィニフェラが無い分構成は単純な感じが否めないが、果汁たっぷりの感じ。冷涼感のある香りと酸があり、タンニンが量的にはあるが滑らかで、口の中が乾くような印象はない。

内藤 (ないとう) : 甲州市上岩崎内藤。棚仕立て。品種はデラウェア。平地。

小佐手 (おさで) : 甲州市勝沼町小佐手。棚仕立て。品種は巨峰、ピオーネ、甲斐路、デラウェア、甲州。

大泉 (おおいずみ) : 勝沼町下岩崎大泉 棚仕立て。品種は甲州、デラウェア

水口 (みずぐち) : 山梨市水口。棚仕立て。品種はデラウェア、一文字でシュナンブラン、ソーヴィニオンブラン

ヴィンテージ情報 生産者コメント

2019 山梨（峡東エリア）

2019年、春先は低温の日が何回かあったことを除けば雨量もそれほど多くない順調な滑り出しの年だった。5月に入ってから雨の日が多くなる。5月の雨量は昨年の1.5倍、一昨年より3倍。甲州ではベト病が多く出た年だった。梅雨に関して、ここ5年は梅雨入り宣言したとたん雨が降らない、そういう流れだったが、2019は宣言通り雨が降る年だった。6月の雨量は2018年の2倍。適期の防除のおかげで病気が広がることはなかった。

雨量もそうだが、日照量の少なさも今年は目立った。2019年7月の雨量は2018年に比べると1.1倍程度だが、日照量は半分以下。雨は降らなくても曇りの日が多かった。

一方夏は暑く、例年通りという感じ。8月の雨は少なかったが曇りは多かった。

生育が少し遅いと感じたのでデラウェア収穫が8月後半から9月に引っ張ることにした。デラウェアの出来はよく、しぼむ直前まで引っ張れた畑もあり完熟で取ることができた。巨峰は9月に入ってから雨で割れが生じそのまましぼんでいた圃場が多かった。甲州は昨年より増収であったが、9月の多雨により糖の上昇は鈍く病気は出なかったものの、期待したほどの熟度は得られなかった。ヴィニフェラは獣害が多く全滅の畑が3枚あった年だった。